コロナに勝つ！　ーJFMAからのメッセージー　：#01

成田のつぶやき

公益社団法人日本ファシリティマネジメント協会　専務理事　成田一郎

◆新型コロナウイルス（COVID-19）が教えてくれたこと

今年の 1 月から新型コロナウイルス（COVID-19）（以下、コロナ）の報道が頻繁になりましたが、当初は自分事との認識は低く、1 月 16 日のJFMA賀詞交歓会は、アルコール消毒等の衛生面の対応はしたものの、予定通り開催させていただきました。

コロナの影響を大きく意識したのは、ファシリティマネジメントフォーラム 2020 の開催です。2 月 19 日～21 日の 3 日間の開催で、通常であれば延べ 5,000 人規模の FM の祭典です。日本でも感染者も徐々に増え始め、死亡者も出始めました。中止すべきか否か迷いました。関係者にはマスクの着用や手洗い励行、消毒用アルコールやマスクの配備など安全に配慮し開催しました。しかし、300 人以上集まる予定の立食形式のネットワーキングパーティ（JFMA賞受賞祝賀会）は、感染の危険性を考慮し中止としました。ほかに一部のシンポジウム等は中止となりましたが、大局は予定通り開催でき、例年より 3 割減の入場でしたが何とか無事に終了することができました。この時点では、感染者はまだ少なく、今思えば、ギリギリの段階での開催でした。

今年のフォーラムのテーマは「人フォーカスの時代－ファシリティマネジメントが拓く未来」。まさにタイムリーで、サスティナビリティやウェルビーイングの重要性を問いましたが、その基礎は、人の安全・健康です。今回のコロナはそれらを教えてくれました。安全・リスク対策として、日本では地震など自然災害への対策を中心に考えており、感染症対策については脆弱であったといえます。

今回のコロナは私たちに大きな価値観の変革を求めました。今後 FM としては、安全・健康を守るために必要な基本コンセプトの確立、グローバルなリスクの視点、テレワークなどの働き方・ワークプレイスの安全視点での再構築、在宅勤務の課題と対策、感染症にも対応できる BCP の構築、FM の基本情報をもとに人事・厚生・財務との横連携とデータベースの構築、それらと安全対応も含めた統合的なFMシステムづくり、清掃への清潔度や安全度を加味した SLA/KPI の導入等々、感染症の事前対策から事後対策までFM的な視点で、考え方からシステムまで、そして、それらを新たな価値観で様々な仕組みを整備することが求められます。

これらを進めるためには新たな経営判断が必要になり、FMが経営にとって欠かせないものであることを経営者が再認識するチャンスにもなると考えます。

◆うつらない。うつさない

このような危機的状況の中で、まさに命を懸けて頑張られている医療関係者の皆様には感謝の気持ちしかありませんが、私たちは「うつらない。うつさない」がささやかではありますが最大の貢献といえます。

政府は、3 月 13 日に「新型インフルエンザ等対策特別措置法」の附則を改正する方式で、コロナを「新型インフルエンザ等」に時限的に含むとする内容の法改正を成立させました。そしてその後、緊急事態宣言を発令しましたが、要請であり強制はできないといいます。

コロナの感染は、接触感染・飛沫感染・エアロゾル（マイクロ飛沫）感染の 3 つがあるといわれています。感染症でも SARS やエボラウイルスのように感染者が明確にわかるものとコロナのように感染しても発症せず、その間にウイルスをまき散らすタイプのものがあります。このようなウイルスに対しては、人と人の接触機会を減らすことが、最大の防御です。まさに外出しなしことです。実にシンプルです。しかし、それがなかなかできません。さらに対応するためには、石鹸による手洗い・消毒、うがい、咳エチケット、換気、人の距離などに配慮することが求められます。

ファシリティ面からも、認識が大きく変わります。感染症などの感染防止対策として安全面の対応です。ハード面では、換気方法、窓のあり方、ドアや衛生器具のタッチレス化の推進、清掃の消毒など安全面への考え方、基準化などが進むものと思われます。

FM として、換気への配慮は重要です。特にエアロゾル感染には効果的ですので、窓を開ける、換気回数を増やす、24 時間換気とするなど対策を講じる必要があります。建物ごとに換気方式が違いますので確認の上、換気を効果的に行うことがファシリティマネジャーの役目でもあります。

ドアのハンドル・取手・ノブや蛇口、衛生器具との接触が接触感染の原因にもなりますので、これらの消毒や石鹸による手洗いで感染を防ぐことができますが、より安全にするにはさらなるタッチレス化や接触を回避した設計がますます進むことでしょう。

◆JFMA事務局の対応

フォーラム後、感染者は増加し、3 月 12 日（木）の理事会は書類決議とし、接触機会を減らしました。その後、JFMAのセミナー・委員会・部会は 4 月 15 日（水）まで中止または延期とし、3 月 31 日（火）には、今後の感染の拡大、試験会場の対応等を鑑み、6 月 28 日（日）に全国 9 会場で開催予定の認定ファシリティマネジャー資格試験の中止を決定しました。これはJFMAにとっては苦渋の決断ですが、皆様の安全を脅かすようなことはできません。同日、事務局内の対応として、4 月末まで、時差出勤で、時短とし、空いている時間帯での通勤を励行。委員会、部会は 4 月末まで原則中止（TV会議、WEB会議等は除く）としました。

事務局内の感染予防策として、免疫力強化のため十分な睡眠と体調管理。接触・飛沫・エアロ

ゾル感染の 3 つから守るための、頻繁な手洗いの励行、マスクの常時着用、3 密の回避（①換気の悪い密閉空間、②多数が集まる密集場所、③間近で会話や発生する密接場面）を実行することとしました。そして体調管理のため朝晩の体温測定。37.5 度以上の熱がある場合は、出勤せず自宅待機等々告知、実施しました。

その後、4 月 7 日には、さらに積極的な方針を出しました。具体的な方針も大事ですが、何のためにやるのかという目標（ミッション）も大事だと考えました。FMのミッションが、FMを通して「人・組織・社会を幸福にすること」です。そこで、新型コロナウイルス対策のミッションは、「人（自分と家族）・組織・社会を守ること」としました。
（基本方針）は、できるだけ外出しない。人の集まる場所へ行かない。接触しない／JFMAへの出勤は、必要最低限とする／自己管理の徹底（睡眠・食事・運動、毎日の体温測定）
（JFMAオフィスの運用）は、時短で 10:00～16:00 に OPEN／毎日 3 名程度は出勤予定／期限は、4 月 8 日～5 月 6 日までを予定としました。
（オフィスでの新型コロナウイルス対応　−うつらない、うつさない−）は、マスクの着用／頻繁な手洗い／離れて勤務（できれば 2m以上）／机・会議テーブル、ドアノブなど清掃・消毒／換気の徹底／来訪者にもマスクの着用および手消毒のお願い
（テレワーク（在宅勤務）の実施）は、テレワーク（在宅勤務）を基本とする／週 1 回程度出勤（時差出勤）とする／全員に 10:00 と 16:00 にメール応答等でコミュニケーションする。
さらに、テレワーク時の業務テーマも決めて、在宅業務のメリハリをつける等の告知もしました。

JFMAでは、テレワークをオリンピックのために準備を進めていました。東京都のテレワークセンターよりコンサルを受け、補助金申請もしていましたが、コロナで必須となりました。セキュリティの問題には十分配慮して、リモートアクセスサービスのマジックコネクトの導入など試行しながら、十分な設備や機器はそろっていませんが、できる範囲でチャレンジしています。テレワークは、オフィス業務を単に在宅でするというより、在宅ゆえ効果的にかつ効率的にできることもあるということの発見も多々ありました。

ワークプレイスも安全面からフリーアドレスが効果的であることがわかりました。少ない人数で適切な距離を保ち自由に業務出来るので効果的です。JFMAは昨年からフリーアドレスを導入しましたが、まさにタイムリーで効果が出ています。JFMAのフリーアドレスは費用も最小限でシンプルですがフレキシブルで効果的です。

この間、WEB 会議システムの利用なども模索し、Skype、Zoom、Meet、FaceTime などで一部会議を開催、これを通して、明らかにワークスタイル、コミュニケーション方法、勤務方法も変わることを実感しています。様々な WEB 会議も日常的に使うことにより、直接会うこと以上のメリットも発見できています。一方、直接集まる意味と価値、効果等についても再認識され、今後はより効果的な対応が可能となると考えています。

◆ピンチをチャンスに。ポジティブ思考で

地震等の多くの自然災害は、予告なく突然来ます。それは、様々な対策をとっていたとしても突然です。しかし、感染症は、ゆっくりとじわじわとやってきます。発生した時、遠方であれば他人事ですが、じわじわとやってきて、気が付いたら、世界中を恐怖のどん底へ落としこみます。事前の対策はもちろん大切ですが、万一起きてからでも人間の注意と心がけで防御できるのです。それをやるのは公けの力と個人の力です。どちらが欠けてもできません。危機感の共有が大切です。

感染症は、自然災害と違い都市インフラ等は基本的に機能していることが大きな特徴です。逼迫の状況とはいえ、家でおとなしくしていれば、ほぼ通常の生活ができるのです。ストレスがたまる、自由に遊びたい等の危機感のない言葉が飛び交っていますが、何をか言わんやです。しかしそのため、DV や家庭内暴力が増えているのも現実です。自然災害は、どうしようもない巨大な自然の力と人間との戦いです。そのため人間が一体になりそれに立ち向かうことができます。しかし、感染症は、ウイルスと人間の戦いではありますが、むしろ人間の内在する問題との戦いであるといえます。人間の心の要素が大きく影響を与えるのです。

我が国の危機管理、BCP は、地震等の自然災害が中心であり、感染症関連については十分ではなかったといえます。感染症に対応した BCP の策定が必須になります。衛生上の問題や各自の行動、コミュニケーション方法、距離感などが問題になります。隔離の要求や避難とは別のセキュリティ動線も考える必要があります。発生確率が低いとはいえ、2 つ以上のリスク因子（コロナと地震など）が重なることも考えなくてはなりません。

私たちも、学習しながらの対応です。しかし、在宅勤務や Web 会議の良さ、Web セミナーの必要性、改めてFMの必要性や自らを振り返る時間を頂けたことなど、なかなか変革できなかったことが、一気に進むチャンスでもあります。ピンチをチャンスに。ポジティブ思考でいくことが今大切なことだと思います。ダーウィンの進化論を引用するまでもなく、この厳しい環境の変化に対応できなければ私たちは死ぬのです。私たちは、自ら危機感の共有と自覚をもち、日本の民主主義のすばらしさ、民度の高さ、清潔で安全な国であることを今こそ世界に発信できるようにしたいものです。日本の未来は、一人ひとりの行動にかかっているのです。あなたも貢献できるのです。あなたが、人の命を、社会を守れるのです。一緒に頑張りましょう。

長々と失礼しました。最後までお読みいただきありがとうございました。